

「ブレイク・ポイントは必ず来る」

—— 塾の現場から ——

学志舎塾長 山田 勝登



私が「沸点の法則」と呼んでいる法則があります。

私たちは水が100度で沸騰することを知っています。ですから、お湯が沸くまでの時間を待つことができます。

ディズニーランドのパピリオンでは長蛇の列ができます。中には90分待ち、120分待ちということも珍しくありません。

ところが、行列の所どころに立っている「ここから〇〇分」という表示が見事に正確なので、人は冷静に待つことが出来るのです。

以前に私が実際に遭遇した出来事ですが、京都に行く途中、

別の駅での人身事故よって乗っていた電車が天津駅で臨時停車してしまったのです。

アナウンスは「処理が済み次第発車しますので、しばらくお待ち下さい」を繰り返すばかり。次第に車内は殺伐とした雰囲気になりました。

結局、50分程度で発車したのですが…人は、予想できる90分は待てますが、予想できない60分が待てないのです。

この、「予想される時間は待てるが、予想できない時間は待てないこと」を「沸点の法則」と呼びます。

この法則が生徒の成績にも当てはまるのです。努力の量と成果が比例グラフのように連動するのは少数派で、多くはそうではありません。

100mを毎日十本走れば、100分の1秒ずつ毎日記録が伸びることはありません。

頑張っても頑張っても伸びないという苦難の時期を過ごしたある日、突然記録が伸び始めます。

勉強でも同じで、力をためる期間を辛抱して、上がるときは一気に上がる場合が多いのです。

この「突然、成長が顕在化する瞬間」をブレイク・ポイントといいます。このブレイク・ポイントは誰にでも訪れるのですが、

残念ながら、いつ訪れるかは誰にも分からないのです。実にやっかいなものだといえましょう。

すると「いつ訪れるか分からないブレイク・ポイント」を待てずに諦めてしまう場合があります。

諦めた人には永遠にブレイク・ポイントは訪れません。「継続は力なり」の本当の意味は、ここにあるのでしょう。

今日の前に中学というバケツがあります。それには「基礎」という小さな穴がここにもあそこにも空いています。

穴は小学校時代の苦手分野です。これに水を入れます。入れる量が少なければ、バケツはいつまでたってもいっぱいになりません。

ものすごい勢いで入れればいっぱいになるかもしれません。しかし止めるとまた空になります。だから一つ一つを穴埋めしながら、

水を入れる量を増やしていくのです。そんな状態での穴埋め作業は辛いことでしょう。いつになったらいっぱいになるのかわかりません。

「百分率」が苦手だった？ 数学のみならず中1の理科の水溶液の濃度で苦しむでしょう。

「速さ」が苦手だった？ 中1の秋の1次方程式は見るのも嫌でしょう。「割合」？「比」？「比例と反比例」？

いやいや、算数以前に文章題を読み取る「国語力」？ 学校の授業はいやおうなく進んでいきます。

そのうえで一つ一つを穴埋めしていくわけです。すなわち基礎をしっかりと固めていくわけです。

ほとんど穴が埋まれば、バケツの水は急速に増えますよね。これがブレイク・ポイントです。

加速し続けてTake offをしない飛行機はありません。寄り添い、励まし、その加速を支援するのが家庭であり、塾の役目だと思っています。

学志舎

岐阜市で24年の塾経営経験を活かし、

お子さまのレベル・ステップに合わせたカリキュラムを組み立て、

徹底した自律学習指導を行っています。

Q.1 A君は公園へ行くのに時速4kmで歩き始めましたが、ちょうど中間地点で転び捻挫をしたため、その後は時速2kmで歩きました。さてA君は平均時速何kmで歩いたことになるのでしょうか？

春・夏・冬の長期休みの講習会で、これまでに生徒に受けの良かった問題です。これは冬期講習会で中学2年生のT君に出した「き・は・じ」のおなじみの問題です。ただ単にこの問題をT君に題したのではなく、問題を出す前に「5秒以内で正解したらお好みのペットボトルドリンクをあげよう！」という悪魔のささやきを一言。T君は一瞬いぶかしげな顔をしたものの「こんな簡単でいいのかな」とつぶやき「3km?」と答えました。(4+2)÷2=3の計算をしたのです。これでは中学生に出す問題としては簡単すぎてペットボトルドリンクが何本あっても足りませんよね。では検証してみましょう。



家から中間地点までの距離を x とします。

$$\text{中間地点までの時間 } x \div 4 = \frac{x}{4}$$

$$\text{中間地点から公園までの時間 } x \div 2 = \frac{x}{2}$$

$$\text{家から公園までの時間 } \frac{x}{4} + \frac{x}{2} = \frac{3}{4}x$$

$$\text{平均の速さ } 2x \div \frac{3}{4}x = \frac{8}{3}$$

A. 時速 $\frac{8}{3}$ km

ちなみに時速4kmと2kmで歩いた距離ではなく、時間が同じならば平均の速さは3kmになります。

さてT君の名誉のために補足です。彼は私が「残念!」と言った瞬間に

「あ、これ前に x 使ってやったことがある。塾長これ5秒なんかでできんし」とさすがにすぐわかって

「塾長ひっかけた!」と。T君は後期の期末テストで意地で数学93点を取りました。

Q.2 To be to be ten made. 日本語で ()

さて、Q.2は見たことがある方もいらっしゃるでしょう。中3以上に出す問題です。

最近では昨夏の中3特訓の休憩時間に「正解者にはアイスを!」で出題しました。答えは再来週のvol.5で。

自律学習の徹底

「言われたことはきちんとこなすが、自分で考えて行動を起こすことが出来ない子が多い」

と言われる昨今、学志舎は「学力」=「学ぶ力」すなわち

「自分で考えて、学習できる力」と位置づけ、徹底した自律学習指導を行うことにより、

自分で考えて行動できる子どもを数多く育てています。



勉強の習慣付け

小学部

中学・高校の6年間で花開く「基礎学力」を徹底して作るコース



朝6時オールナイト学習会終了

中学部

高校受験のための教科力と自律の養成を徹底して行うコース



合格おめでとう!

高校部

本格的な大学受験のための学力形成を徹底して行うコース

褒める教育の徹底

褒め上手な親の子は伸びる子が多い、もしくは学力が高い生徒が多いというのは、24年の経験の中で間違いありません。

学志舎は18年前に岐阜県では初めてコーチングを導入し、お子さまの存在を認め、良いところを褒めることを徹底して行うことで、お子さまを大きく伸ばしています。

〒500-8085 岐阜市白木町92番地

【お問い合わせ】平日10:00~21:00

☎ 058-265-4562

【感染症対策実施中】



<https://gakushisha.com/>

学志舎

検索